

盲導犬同伴受け入れ拒否
48%が経験しています

盲導犬を連れてさまざまな施設・
場所を利用することは**法律で
認められています**

盲導犬と社会参加する視覚障害者の
方々へのご理解ご協力をお願いします

【身体障害者補助犬法】

公共施設、公共交通機関を始め、飲食店やスーパー、ホテルなど不特定多数の方が利用する民間施設で、身体障害者が補助犬を同伴することを拒んではならないとされています。

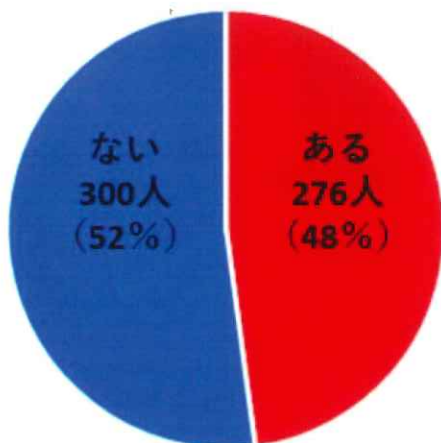
【障害者差別解消法】

補助犬を理由とする同伴拒否を差別と位置づけ、禁止しています。2024年4月に事業者による合理的配慮の提供が義務化されたことにより、障害者へのより一層の理解と対応が求められます。

約半数の盲導犬使用者が
「盲導犬同伴で受け入れ拒否」の経験者です

2024年1月から12月の一年間で、
盲導犬の受け入れ拒否を受けたことは
ありますか？（※1）

拒否に遭った場所はどこですか？
（複数回答可）（※2）



盲導犬の受け入れ よくある心配ごと

動物や犬は店内に入れられません

盲導犬と盲導犬使用者は国家公安委員会が指定する訓練施設で十分な訓練・指導を受けています。
そして、身体障害者補助犬法により盲導犬使用者はさまざまな施設・乗り物などを盲導犬を連れて入店・利用することができます。
一般のペットとは異なることをどうぞご理解ください。

盲導犬がお店を汚したり、他のお客様に迷惑をかけるのでは・・・？

盲導犬はむやみに吠えたり、突然おしっこをしてしまうことはありません。
盲導犬に向いた、どこでも落ち着いて待機できる犬が選ばれ、訓練がされています。
店内をウロウロすることはありませんし、盲導犬使用者が食事の間などは足元で静かに待っています。盲導犬のフードや排泄管理も使用者が責任をもって行います。

犬アレルギーや犬嫌いのお客様にはどう対応したらいいの？

盲導犬使用者の方と犬アレルギー・犬嫌いの方、どちらか一方的に我慢しなければならない状況は望ましくありません。どちらかの席を離れた場所に案内する、あるいは少し待っていただくなど双方が気持ちよく過ごせるように調整してください。

もしそのような調整が難しい場合は、その状況を盲導犬使用者にご説明して頂き相談してください。

毛が飛んだり、感染症リスクが不安です

盲導犬使用者は盲導犬と外出する際は、犬にコートを着せる、敷物を持参するなど、出来るだけ毛が飛び散らないように各自が配慮しています。
また普段からブラッシングやシャンプーにより盲導犬の身体を清潔に保ち、予防接種、健康診断も欠かさず行っています。
これらの盲導犬の健康・衛生管理は法律で盲導犬使用者に義務付けられています。

どうぞ 温かい受け入れにご協力ください



視覚障害者が店舗を利用する際の困りごと

近年、セルフレジやタブレット・スマートフォンを使用した注文、ロボットによる配膳等、ICT技術の普及に伴い、視覚障害者が店舗を利用する際に、難しいと感じることが増えています。視覚障害者の方が来店された際は、声掛け等のご配慮をいただくと助かります。